

平成 18～21 年度用 中学校「美術」

題材内容資料

第 2・3 学年上

目次

- p. 1・2 美術科評定規準例について
p. 3～9 美術 2・3 上「美を求めて」題材内容資料

H18～21 年度用 中学校教授資料

発行者の 番号・略称	文部科学省検定済 教科書の記号・番号	
116 日文	2・3年上	美術 811

日本文教出版

美術科評定規準例について

◎美術科の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的能力を伸ばし、豊かな情操を養う。

◎評価の観点及びその趣旨

美術への 関心・意欲・態度	主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組み、その喜びを味わい、美術を愛好していこうとする。
発想や構想の 能力	感性や想像力を働かせて感じ取ったことや考えたことなどを基に、豊かに発想し、よさや美しさなどを考え、心豊かで創造的な表現の構想をする。
創造的な技能	表現の技能を身に付け、造形感覚や感性などを働かせ、自分の表現方法を創意工夫し創造的に表す。
鑑賞の能力	美術作品や文化遺産などに親しみ、感性や想像力を働かせてよさや美しさなどを感じ取り味わったり、理解したりする。

◎美術科における観点別評価の総括

・観点別評価の総括

題材の評価は、それぞれの観点ごとに「おおむね満足とする」評価をBとし、それを中心に特に優れているとされる評価をAとしました。また長期にわたる題材に関しては、学習の展開ごとに四つの観点で評価を行います。美術科の場合、生徒たちの学習に対するはぐくみの内容を大切に、後半での成果を重視します。

また、四つの観点には評価を行う上で、それぞれどのような視点やポイント、考え方で評価がされるべきかに特徴があります。「美術への関心・意欲・態度」であれば、全体の学習活動を通して評価しますが、題材を通し、個々の生徒の関心・意欲・態度がどのように変化したのかを見取り、その原因や変容を分析した上で題材の評価とすべきでしょう。また「発想や構想の能力」においては、アイデアがうまく表現に結びつかなくても、アイデアスケッチ、個別指導時の発言やつぶやきの中から個々の生徒の発想力や、どのように構想をまとめていったのかを探る必要があるでしょう。「創造的な技能」においてはでき上がった作品から評価を下すのみではなく、制作過程で、創造的な技能をど

ようにはぐくんでいったのかを観察し、総合的に判断する必要があります。その上で、結果として失敗してしまった作品の作者においてもその生徒の学びを見取ることができ、ます。「鑑賞の能力」においてはレポートや感想文のみに頼ることなく、授業を通して何を感じ、考えたのか、発言や個別指導の際のつぶやきも個々の変化や心の揺れとして記録することが望ましいでしょう。

・学期の総括例

以下各学期におけるABCの評価例を示しました。

あくまでも目安とし、評価する側が、どのような評価規準を題材ごとに設定するかという点が重要です。パーセンテージ等の数字はその規準により左右され、その上で妥当性を持つ点にも注意が必要です。(パーセンテージは習熟度の割合を示しています。)

A…………70%以上…………○…………5点

B…………40～69%…………△…………3点

C…………39%以下…………無印…………1点

それぞれの題材で四つの観点ごとにこれまで評価してきた内容を、総合的に評価します。長期の題材によっては、重視したい観点の評価に係数をかけ、配点することもあります。

各学期の定期テストについては、中間テスト、学期末テスト等で実施し、知識理解度を中心に評価しますが、発想や構想の能力・創造的な技能・鑑賞の能力を確認する観点の問題も設定します。設定全体に占める定期テストの割合は30～40%としてあります。各学期における学習内容に合わせて設定することが大切です。

ABCの評価を出す点でも同じことが言えますが、どのような学習目標を設定し、どのような評価規準を題材ごとに設定するかという点が重要で、評定への換算点も左右されることに注意が必要です。今回の例では評定への換算は以下の点数で行ってみました。

5…91点以上

4…71～90点

3…41～70点

2…21～40点

1…20点以下

(例：2年生・1学期) 必要に応じて評価のポイントを加える

観 点	美術への 関心・意欲・態度				発想や構想の 能力				創造的な技能				鑑賞の能力			合計点 100点 満点	評 定	
	①	②	③	作品 から	①	②	テ ス ト	作品 から	①	②	テ ス ト × 3	作品 から	①	②	テ ス ト			
氏 名	あ	○	△	○	○	△	△	△	○	○	○	△	○	○	△	○	82	4
	い	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	△	○	96	5
	う						△			△					△		26	2
	え		△	△	△	△	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	60	3
	お																20	1
	か	△	△	△	△	△	△	○	△	△	△	○	△	△	△	△	70	3
	↓																	

網掛けの部分は2倍の係数をかける。

ここでは題材の学習目標に照らし、「創造的な技能」のテストの結果から導き出す評価に3倍の係数をかけている。

◎評価をする姿勢を考える

・絶対評価を行う上で

絶対評価が全国で実施されて数年がたちます。絶対評価は学習指導要領に基づいて、生徒たちが習得すべきことに対して、どれだけ学習内容が身につけているのかを見取することを大切にしています。それに対し相対評価は、それぞれの学校内における同学年の生徒集団の中で、どのような学習成績順位に各生徒がいるのかということ測るものでした。習熟度を評定に換算した場合でも学校間の学力格差や指導する教師によつての差は現れませんでした。

それぞれの評価方法にそれぞれのよさがあり、また、評価結果に現れにくい面を持つことも否めません。絶対評価の場合、その評定への換算についてはいくつもの方法が考えられています。しかし、学習を組み立てる上で設定した評価規準の内容について振り返りを行う大切さや、学習すべきことと各題材の妥当性、題材における学習目標についての議論は、まだまだなされなければならない現実があります。点数換算をし、生徒た

ちが何点を取ればどの評定になるという問題だけでは解決は難しいでしょう。この議論があつてはじめて絶対評価はそのよさを発揮できます。

学校現場においては評定が直接、高校入試への合否判定資料となる現実を踏まえ、全中学校、各教科の評定分布をパーセンテージで公表している自治体もあります。それだけ評価を見直し、生徒たちの資質や能力をはぐくむための確かな見取りを行おうとする現れだと信じたいものです。

・評価の工夫

絶対評価を行う上で、指導者が大切にしなければならないことに、評価の妥当性という問題があります。指導する立場が、設定した評価規準の妥当性に対し説得力を持つためには、客観的な見地でそれぞれの題材で設定した評価規準を見直す必要があるでしょう。そして評定への総括において、自分の行った総括の仕方が妥当性を持つのか、研修会等で複数の視点から話し合い、深めてみることも大切だと思われま

す。例えば、一人の生徒が転校した場合、違った指導者のもとで同じ力を同じ立場で発揮したとすれば、およそ同じような評価が下されるべきでしょう。指導者の個人的な価値意識で評価が行われてはなりません。

また、同じ学習目標に対して、個々の生徒が同じ時点で同じ反応を示すとは限りません。それは同じ数字の評定がされている他の生徒についても同じことが言えるでしょう。設定した評価規準をどのような場面でどのように評価するのか、個々の生徒の特性を見抜く必要もあるのではないのでしょうか。公平な立場で評価を行うために、個々の生徒の観察を怠らず、評価するポイントや評価の回数を可能な限り増やし、指導者の評価に対する客観性を高める必要があると思われま

◎評価規準例、「A」と評価するキーワードの例について

次ページ以降の題材内容資料については、国立教育政策研究所の参考資料に基づき、「おおむね満足できる」状況(B)を「題材の評価規準例」とし、その中で特に「十分満足できる」状況(A)と判断される、生徒の具体的な状況の例やキーワード、ポイントの例を『A』と評価するキーワードの例』として示しています。

美術 2・3 上 「美を求めて」 題材内容資料

領域	ページ・ 題材名	時間	学習目標	材料 用具	評価の観点	題材の評価規準例	「A」と評価する キーワードの例
鑑賞	表紙・裏表紙 美を求めて	(適宜)	・ 日常の景色や自然環境の中に美しさを見だし、それを表現するために独自の方法を追求した作品について理解を深める。そして自らの表現において自分らしく美しい表現を求める態度を身につける。	同作品の資料や関連する作品の資料など	美術への関心・意欲・態度	作品や作者に興味を持ち、同じモチーフ（植物）からも様々な表現方法で作品が生まれることを知り、いろいろな表現を味わおうとすることができる。	意欲的に 豊かさに気づき
					発想や構想の能力		
					創造的な技能		
					鑑賞の能力	自然をテーマにした作品を通して、自然の美しさを再認識するとともに、作品のよさを味わいながら、作者が表そうとしたものを感じ取ることができる。	造形的な魅力を感じ取り 深く感じ取り
鑑賞	2・3 自然の恵みと 造形	1 2	・ 尾形光琳の「紅白梅図屏風」を通して、作品の背景にある日本的な自然観や作品に込められた作者の思いを探る。 ・ 「紅白梅図屏風」に代表される日本的なテーマ設定や装飾性豊かな造形美、屏風絵という形式の独自性を発見する。	関連する光琳や琳派の屏風絵作品の資料など	美術への関心・意欲・態度	光琳の「紅白梅図屏風」に見られるテーマ設定や独自の装飾的表現などに興味を抱き、日本絵画の造形美に対する関心を持つことができる。	テーマを掘り下げ 探求心を持って 高い関心
					発想や構想の能力		
					創造的な技能		
					鑑賞の能力	作品の背景にある自然観や作者の思いを感じ取るとともに、日本的な造形表現の特色や屏風絵という形式の面白さに気づくことができる。	深い理解 柔軟な視点で 多角的な視点で
表現 絵・彫刻	4・5 新鮮な見方で	3 6	・ 見方を変えて、見慣れた場所や風景の思いがけないよさや美しさを発見し、創造的な発想・構想をして、自分なりの表現を工夫して表す。	画用紙 鉛筆 水彩絵の具 接着剤 写真 コンピュータ プリンタ など	美術への関心・意欲・態度	見方を変えることで思いがけない美しさや面白さがあることに気づき、試行錯誤を重ねて制作に取り組もうとすることができる。	主体的に 自ら進んで 意欲的に
					発想や構想の能力	自らの工夫を大切に、新鮮なものの見方や考え方をして発想・構想をすることができる。	想像力を広げ 単純化や強調、構成の仕方を工夫して 心豊かに
					創造的な技能	見方を変えたり自分なりに想像したりし、遠近法や色彩の工夫をしたり、映像メディア等の特質を生かしたりして表現することができる。	独創的な表現で 創造的に
					鑑賞の能力	感性や想像力を働かせて、作品について多様な表現のよさや美しさなどを感じ取ることができる。	多様な見方で よさや価値を見だし 深く味わう

領域	ページ・ 題材名	時間	学習目標	材料 用具	評価の観点	題材の評価規準例	「A」と評価する キーワードの例
表現 絵・彫刻	6・7 息づく空間	4 5 6	・奥行きや広がり，空気感をその場で感じ，温度，湿度，風の揺らぎや日差しの心地よさ等，様々な感覚を大切に，五感で感じ取ったものを素直に，また遠近法などの表現も考えながら絵や彫刻に表す。	画用紙 鉛筆 コンテ カラーインク 水彩絵の具 加工粘土 粘土べら など	美術への関心・意欲・態度	身近な風景や室内を注意深く観察し，空間の広がりや深さを感じ取ろうとすることができる。	意欲的に 感動を持って
					発想や構想の能力	空間で感じ取った感覚を大切に発想することができる。	明確な主題 主体的な 新鮮さ
					創造的な技能	見て感じた空間を表現の中到的に表すことができる。	自分らしい 空間を感じさせる 深く追求し
					鑑賞の能力	自分の作品のよさや工夫した点を的確に説明することができる。また他者のそれを評価することができる。	自己作品への的確な評価 温かな視点で
表現 絵・彫刻	8・9 多様な表現を 求めて	4 5 6	・美術の表現の多様さや独特な表現形式・方法に関心を深め，材料の特性などを生かして独自の世界を表現する。	画用紙 鉛筆 水彩絵の具 アクリル絵の具 板材 瓶 地塗り剤 金属板 接着剤 など	美術への関心・意欲・態度	多様な表現形式・方法に関心を持ち，表し方を工夫して取り組もうとすることができる。	主体的に 課題意識を持って 意欲的に
					発想や構想の能力	既成の支持体の形状にとらわれず自由に発想し，創造的な表現の構想をすることができる。	心豊かに 独創的な 主題を深め構想を練る
					創造的な技能	多様な表現方法や材料などの生かし方を工夫して表現することができる。	表現の幅を広げ 効果を考えて 表現意図を考えて強調や省略し
					鑑賞の能力	感性や想像力を働かせて，自分の価値意識を大切にしながら作品のよさや美しさを感じ取り，批評し合うことができる。	よさや価値を見だし 多様な見方で 味わい
表現 絵・彫刻	10・11 超現実的な 世界	4 5 6	・自ら設定した主題をもとに，夢や想像したことなど心の世界を，シュルレアリスムの手法を使って創造的に表す。	画用紙 鉛筆 水彩絵の具 アクリル絵の具 写真 コンピュータ など	美術への関心・意欲・態度	色々な表現方法の中から自分らしい表現を工夫し，よりよい制作をしようとするすることができる。	主体的に 試行錯誤を経て 表現に喜びを見だし
					発想や構想の能力	夢や想像など心の中を表現しようと工夫し，発想や構想をすることができる。	心豊かな 新しい表現方法を自分の表現として
					創造的な技能	多様な表現方法や表現材料を工夫し創造的に表すことができる。	独創的な 新しい表現を研究し 試行錯誤から新たな発見をし
					鑑賞の能力	作者の心情や意図，表現の工夫などを感じ取ったり味わったりできる。	温かな視点で 創造的な豊かさを味わえる 理解を深める 自分の意欲につなげて

領域	ページ・ 題材名	時間	学習目標	材料 用具	評価の観点	題材の評価規準例	「A」と評価する キーワードの例
表現 絵・彫刻	12・13 楽しく効果的 に表そう	3 ～ 6	<ul style="list-style-type: none"> ・表したい内容を効果的に伝えるためにはどのような表現を工夫すればよいかを考え、楽しいアイデアや効果的な方法で表現したり、身近な生活に生かしたりする。 	画用紙 色鉛筆 サインペン 各種ペン 水彩絵の具 コンピュータ 加工粘土 など	美術への関心・意欲・態度	楽しい発想や構想を練り、よりよい表現をしようと試行錯誤しながら工夫することができる。	意欲的に取り組み 独自の表現を工夫しようとして 試行錯誤から新たな発見をし
					発想や構想の能力	見る人が印象的に楽しく感じるような発想をし、工夫しながら構想を練ることができる。	共感を生む獨創性 心豊かな感じ方や表現への展開 新鮮な感じ方で
					創造的な技能	漫画や、イラストレーションなど独自の表現方法を理解し、その上で表したい内容を自分なりの楽しい表現方法で制作することができる。	多様な表現を工夫し 意図に合った表現方法を発見し 意図に合った創意工夫
					鑑賞の能力	色々な作品のよさや楽しさを理解し、作者はどのようなアイデアで、効果的に自分の思いを伝えようとしたのか味わうことができる。	独自の視点から 様々な人の立場に立った視点で 深く味わい
表現 絵・彫刻	14・15 身近な人を見つめて	4 ～ 6	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人を愛のあるまなざしで観察し、性格や人柄、その人への思いなどを自分らしい方法で表現する。 ・独自の表現を工夫しながら、美しい表現について追求する。 	画用紙 鉛筆 水彩絵の具 加工粘土 粘土べら など	美術への関心・意欲・態度	身近な人間を見つめ、自分らしい表現の仕方を創意工夫しながら、その人への気持ちを前向きに表現しようとする 自分の作品に愛着を持ち大切にすることができる。	対象を深く見つめ 独特な表現 深い関心
					発想や構想の能力	対象の人物の内面的な部分を感じ取り、作品の主題を発想し、構想を練ることができる。	独自の表現 豊かな構想
					創造的な技能	多様な表現方法や材料などの生かし方を工夫することができる。 様々な表現形式や構成、技法などのよさを生かして制作することができる。	自分の表現方法を深め創造的に 新たな方法を試み表現の幅を広げる
					鑑賞の能力	作者の心情や意図、創造的な表現の工夫などを感じることができる。	独自の視点から 見方を深める

領域	ページ・ 題材名	時間	学習目標	材料 用具	評価の観点	題材の評価規準例	「A」と評価する キーワードの例
表現 (複合)	16・17 映像表現の 広がり (題材例: デジタルコ ラージュ・夢の世界)	2 ~ 4	・写真などの映像イメージを使用した表現の可能性に気づき、これらをコンピュータ上でコラージュ的に合成したりすることで得られる新鮮な効果を生かして表現する。	写真素材 コンピュータ グラフィックソフト カラープリンタ など	美術への関心・意欲・態度	写真などの映像の効果を試しながら、自分の内面にある思いや夢などの表現に取り組もうとすることができる。	意欲的に 美しさを感じ取って
					発想や構想の能力	多くの写真を見たり、自分の内面を見つめたりすることで、夢のような世界を発想し、画面の構想をつくり上げることができる。	自分なりのイメージで 創造的な構想
					創造的な技能	映像メディアの特性を生かし、美しい形態や色彩を効果的に配置して、表現を深めることができる。	新しい手法を試み 自分らしい表現 相手の気持ちを配慮した
					鑑賞の能力	映像メディアの特性や表現の広がり、可能性を味わうことができる。	新しい視点で 独自の視点から 見方を深める
表現 デザイン・工芸	18・19 光の表現・ 光の演出	4 ~ 8	・身の回りの光の多様性に気づき、そのよさや美しさを生かして表現したり、身近な空間を演出したりすることを通して、造形要素としての光の意味を考え、目的に合わせて効果的に用いる。	電球 ソケット コード 針金・和紙・ セロハン・そ 他周辺材 絵の具 ペンチ 木ねじ はさみ など	美術への関心・意欲・態度	太陽光、炎の光、人工照明など光の多様性に関心を持ち、生活や表現活動と光の関係について考えようとするができる。	様々な視点から 深く
					発想や構想の能力	光が人に与える感覚や、見る人が抱く感情、材料のよさを考え、目的に合った照明や光の演出の方法を発想することができる。	使用する人の立場を考慮して 効果的に
					創造的な技能	表現意図に応じ、形や色、材料や用具の生かし方を考え、自分なりの方法で表現することができる。	効果的に 的確に 美しく
					鑑賞の能力	生活や表現活動に生かされた光の効果を感じ取り、その美しさを楽しむことができる。	心豊かに より深く
表現 デザイン・工芸	20・21 手づくりの 楽しみ (題材例: コースター をつくる)	4 ~ 8	・材料の特性を生かして、生活に潤いや彩りを与える生活用具をデザインし、手づくりのよさを生かしてつくる。 ・木材加工や金属加工など材料に応じた加工方法を用い、デザインから完成までの工程を理解し制作する。	木材 彫刻刀 アルミ板 銅網 真鍮網 銅線・真鍮 線各種 金づち 金切りばさみ 万能ばさみ ヤスリ各種 砂袋 糸のこぎり など	美術への関心・意欲・態度	身近で使うものをつくることに興味を持ち、完成まで計画的に制作することができる。	意欲的に 制作意図が明確 深めて
					発想や構想の能力	手づくりの温かさを大切にして、材料の特性を考えながら、使う人の立場を考えたコースターのデザインをすることができる。	独創的な 斬新な材料の組み合わせ方で
					創造的な技能	材料に応じた加工方法を用い、計画的に制作し、安全で効果的な用具の使い方や自分のイメージに合った技法を考えて作品を制作することができる。	材料の特性を効果的に生かし 創意工夫し
					鑑賞の能力	自分や友だちの作品から手づくりの温もりやよさを感じ取り、大切に使おうという気持ちを持つことができる。	心豊かな 温かな視点で

領域	ページ・ 題材名	時間	学習目標	材料 用具	評価の観点	題材の評価規準例	「A」と評価する キーワードの例
表現 デザイン・ 工芸	22・23 だれもが快適 なデザイン	4 ～ 6	・人々の生活や社会状況に興味を持ち、様々な人々の立場の違いを考え、誰もが快適に使えるものをデザインする。	画用紙 色鉛筆 水彩絵の具 加工粘土 など	美術への関心・意欲・態度	人々の生活や社会状況に興味を持ち、バリアフリーの意味やユニバーサルデザインの意味を感じ取ろうとすることができるとともに、様々な人々の立場からも考えようすることができる。	深く理解しようと それぞれの立場を大切に 温かな気持ちで
					発想や構想の能力	日常生活や身近な環境から課題を発見し、誰もが快適と思われるデザインを発想・構想することができる。	使う人の立場を研究し 優しさを大切に 自らの課題を発見し
					創造的な技能	使う人の気持ちや立場を考慮して、材料や加工方法などを工夫しながら制作できる。	加工するための方法や技術の 習得 試行錯誤を経て
					鑑賞の能力	使う人の気持ちや立場を考えながら、アイデアや作品のよさを味わうことができる。	使う人の気持ちや立場の研究 を踏まえて デザインの魅力や可能性を考 えながら
表現 デザイン・ 工芸	24・25 伝えよう 大切なこと (題材例：ポスターによる伝達)	4 ～ 6	・伝えたいことや主張したい内容の表し方を工夫して、効果的に伝えるための材料や用具、形、色などを考え、ポスターで表現する。	ポスターカ ラー デジタルカ メラ コンピュータ グラフィッ クソフト など	美術への関心・意欲・態度	伝えたい内容を視覚的に印象的に伝える工夫をしようすることができる。	主体的に 強い関心を持ち
					発想や構想の能力	集めた資料などをもとにアイデアスケッチを行うなどして発想し、効果的な表現を構想することができる。	多様なアイデアで 幅広いとらえ方で
					創造的な技能	効果的な構成や色彩などを工夫したり、いろいろな材料を活用したりして、目的に合った表現をすることができる。	材料や用具の特性を生かし わかりやすく美しく 独創的に工夫し
					鑑賞の能力	作品のよさや美しさ、独自の表現の工夫を味わうことができる。	創造的な表現を感じ取り
鑑賞	26・27 イメージを届 けるデザイン	1 ～ 2	・身の回りにある書籍、カードなど印刷物のデザインに関心を持ち、受け取る人のことを考えた内容や目的に合ったデザインの工夫を探り、グラフィックデザインの魅力や意義を考える。	参考資料 図版 スライド など	美術への関心・意欲・態度	身近な印刷物のデザインに関心を持ち、材料や仕組みなどについて考え、作品を楽しもうとすることができる。	日常的な興味 注意深い観察
					発想や構想の能力		
					創造的な技能		
					鑑賞の能力	受け取る楽しさが考えられたデザインの効果を理解し、グラフィックデザインの魅力を味わうことができる。	見方を広げ デザインの豊かな可能性を感じ

領域	ページ・ 題材名	時間	学習目標	材料 用具	評価の観点	題材の評価規準例	「A」と評価する キーワードの例
鑑賞	28・29 もう一つの目	1 ↓ 2	<ul style="list-style-type: none"> ・撮影した人の思いや願い、あるいは感性などを感じ取りながら、表現の手段としての写真への関心を持ち、その特性を生かした表現の工夫やよさについて理解し、見方を深め、その魅力を味わう。 	参考資料 図版 関連する写真集 など	美術への関心・意欲・態度	撮影した人の思いや願い、あるいは感性などを感じ取りながら、表現の手段としての写真に関心を持つことができる。	自ら調べたり 意欲的に
					発想や構想の能力		
					創造的な技能		
					鑑賞の能力	写真の特性を生かした表現の工夫やよさを感じ取り理解し、その魅力を味わうことができる。	自分の価値意識を持って批評し 見方を深め
鑑賞	30・31 現代に生きる 伝統 —工芸の美—	1 ↓ 2	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統工芸の多様性や独自性に対する理解を深める。 ・受け継がれてきた材料や技術に、独自の創意工夫を加えることにより生み出される伝統工芸の新たな魅力を味わう。 	参考資料 図版 作品集 ビデオ DVD スライド プレイヤー プロジェクタ ワークシート など	美術への関心・意欲・態度	伝統工芸の世界に目を向け、その独自の魅力に関心を抱くことができる。	積極的に 深める
					発想や構想の能力		
					創造的な技能		
					鑑賞の能力	作者の創意や工夫を感じ取りながら、現代に生きる伝統工芸の魅力を味わうことができる。	積極的に より深く
鑑賞	32・33・34 日本絵画の 造形美	1 ↓ 2	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代中期に熟成した日本絵画の造形の特徴を代表的絵師の作品を通して理解し、それぞれの個性的な展開を味わう。 ・日本絵画の独自の表現と西洋流の手法を取り入れた表現とを比較し、それぞれのよさを味わう。 	代表的絵師 たちの関連 資料 手づくりの ミニチュア 屏風 など	美術への関心・意欲・態度	江戸中期の絵画に見られる日本的な表現の特色や個性的な展開に興味を持ち、西洋的表現の取り入れ方にも着目しようとするすることができる。	自ら調べたり 強い興味・関心を持ち
					発想や構想の能力		
					創造的な技能		
					鑑賞の能力	江戸中期の代表的絵師たちの個性や造形方法の違いを見分けることができるとともに、それぞれのよさを味わうことができる。	表現の共通性や違いを把握し 柔軟な視点で 探求心を持った

領域	ページ・ 題材名	時間	学習目標	材料 用具	評価の観点	題材の評価規準例	「A」と評価する キーワードの例
鑑賞	35・36・37 日本の美術と 世界	1 ↓ 2	・日本の美術について、その時代や社会の変化、諸外国との交流に着目し、興味や関心を持って鑑賞し、日本の美術の概括的変遷や固有の特色などへの興味や関心を高め、文化と伝統などについて理解し、その見方や感じ方を深める。	参考資料 図版 画集 ビデオ DVD スライド プレイヤー プロジェクタ ワークシート など	美術への関心・意欲・態度	鑑賞活動を通して日本の美術の概括的変遷や固有の特色などに興味や関心を持つことができる。	意欲的に調べ 深く味わおうと
					発想や構想の能力		
					創造的な技能		
					鑑賞の能力	時代や社会の変化、諸外国との交流に着目して日本の美術を鑑賞することができる。 文化や伝統として受け継がれてきた日本独自の美意識や創造的精神などについて理解することができる。	美しさや独創性を感じ取り よさや価値を見だし 尊重する 見方や感じ方を深める
鑑賞	38・39 北斎と遠近法	1 ↓ 2	・異文化間の交流や影響関係などを確かめながら美術作品を鑑賞する。 ・北斎の空間表現と西洋画の遠近法との共通点や相違点を確かめ、それぞれの特色や魅力を味わう。	参考資料 図版 画集 ビデオ DVD スライド プレイヤー プロジェクタ ワークシート など	美術への関心・意欲・態度	異文化間の交流や影響に関心を持ち、美術作品を鑑賞しようとするができる。	豊かな探求心で 積極的に
					発想や構想の能力		
					創造的な技能		
					鑑賞の能力	北斎の空間表現と西洋画の遠近法との共通点や相違点に気づき、それぞれの魅力を味わうことができる。	自ら調べたり確かめたりしながら 見方を広げ